

(平成 29 年 7 月試験研究業務月報)

試験研究課題： アカモク養殖産地の拡大および収穫長期化のための技術開発

研 究

アカモク生産拡大技術開発に向けた種苗生産を開始

海洋センターでは食用海藻アカモクの生産拡大のため、収穫量の増加を目指した養殖試験に取り組んでいます。7月中旬に、養殖試験に使用するアカモク種苗の生産を開始しました。京都府が独自に開発した小片基質と呼ばれる小型樹脂製ブロックの上にアカモクの種（幼胚）を撒き、1ヶ月程度経過した後に立体攪拌培養^{※1}と呼ばれる行程に移します。立体攪拌培養はアカモク種苗を短期間で効率的に成長させることができます。さらに今回は、昨年度に明らかになった光環境や攪拌方法の改良により、大型水槽（1000L）を使用した生産効率の良い種苗生産を実施します。

長さ約 5 cm に成長したアカモク種苗は、10月中旬に宮津市養老地区に設置した養殖施設に沖出し^{※2}します。養殖試験では、収穫期間を長期化するための早期刈り取りや複数回の刈り取りを行う多回収穫など、養殖アカモクの収穫量アップに向けた技術開発を行います。

※1 立体攪拌培養：水槽底面から空気を出し、種苗を攪拌しながら培養する方法。個々の種苗に光がまんべんなく当たることで成長が促進され、生残率も向上する。（特許取得技術）

※2 沖だし：陸上の施設で生産した種苗を大きく育てるため、海の養殖施設に移動させること。



アカモクの種（幼胚）



1000L 水槽による培養